



家相図

昔の家屋の様子を表した絵図史料

年月を経た家屋の変遷を知る上での史料の一つに「家相図」があります。家相図とは、19世紀以降流行した、家の間取りや方位などから吉凶を判断するために描かれた家屋全体の平面図のことです。図には、主に火元や水回りを対象とした吉・凶の書き込みがあり、中には朱書きや別紙貼り付けで改築指示を記したものもあります。



▲家相図（部分・飯田市松尾森本家 文化文政時代）

家相図の作者

飯田・下伊那地域の家相図の多くは、明治から大正にかけて、松浦琴楽・琴生・琴勝によって描かれています。これらによって歴史的建造物調査や古文書調査の際に確認したものや、広報による情報提供によって、飯田市近隣地域も含め、15件から計25枚の家相図を確認しましたが、うち16枚は松浦一派によって描かれています。



この松浦一派は喬木村加々須に在住していましたが、経歴や人物像など詳細は分かっていません。松浦琴生は1889（明治22）年に『萬病根切窮理』を著しており、方位と人体を対応させ、建物のある部分に不備があると、それに対応する体の部分が不健康であると説いています。

▲喬木村加々須に残る松浦琴生の墓

家相図から分かること

家相図の性質は、建築前に描かれる設計図ではなく、建物の間取りや位置関係を当時実際に建っていた建物を見ながら描いたものです。家相図を建築学的な観点から見ると、現存する建物の改築前の姿が分かりますし、失われた建物であれば古写真などと合わせて概要を知ることができます。家相図をお持ちの方はぜひ歴史研究所までご一報ください。



▲家相図より判明した座敷改築の例（飯田市松尾森本家1階平面図座敷部分 右：文化文政時代、左：現状）改築による平面構成の直接的な中葉がここから、家相の影響による改築と考えられます。（参照：『史料で読む飯田・下伊那の歴史1 松尾大森本の家と周辺の社会』飯田市歴史研究所、2009年3月発行予定）

飯田アカデミア

歴史学を中心とした専門研究者が、広い視野から、興味深い研究の最前線を分かりやすくお話しします。ぜひご聴講ください。

第48講座 講師：土生田 純之さん（顧問研究員・専修大学教授）（各日2コマ、計4コマの講義を行います）

第1コマ 3月7日（土）13:30～17:00 飯田の古墳と社会

「飯田には多くの古墳がある」と一般的には理解されています。しかし伊那谷全体でも総数800基に満たない数は、他に比してむしろ少ないほうです。約800基のうち24基もの前方後円墳の存在が、こうした誤解を招いたものと思われそうですが、さらに伊那谷の古墳の大半が中期中葉の5世紀中葉以後に築造されたものであり、著しい特徴となっています。今回はこうした極めて独自色の強い飯田の古墳を分析して、飯田地域の古墳時代社会を復元したいと思います。

- 1コマは90分です。
- 会場 飯田市りんご庁舎3階会議室（飯田市本町1丁目15番地、地域交流センター）
- 募集人数 各講座30人
- 受講料 1コマ100円（資料代）

第2コマ 3月8日（日）10:00～14:30 飯田と「中央」、そして渡来人

古墳時代における「中央」の存否は、古墳時代が国家段階に到達していたか否かという命題とも密接に絡む、極めて重要な研究課題です。この課題に対して、従来は「畿内」の古墳にばかり目を奪われ、その結果、論議の解明についても「畿内」の巨大古墳等のみ研究の刃が向けられてきました。今回は飯田における渡来人の足跡をたどり、その動向を手がかりとして、いわゆる「地方」から「中央」の位置づけを試みることにします。

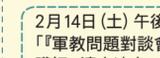
- 申込み・問い合わせ 電話、ファクシミリ、Eメール、ながの電子申請サービス(<http://shinsei.e-nagano.lg.jp/>)で、歴史研究所へお申込みください。
- ファクシミリまたはEメールでお申込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

地域史講座

歴史研究所発行の『みるよまなぶ 飯田・下伊那の歴史』を題材にした講座です。

●2月21日（土）午後2時～午後4時
「禅僧たちの戦国時代」
・講師 織田顕行（飯田市美術館学芸員）
・場所 下久堅 南原区民センター

戦国時代の伊那谷では、仏教界にも大きな変化がありました。特に、時の権力と結びついた禅宗（臨済宗）は時代の波に翻弄されました。開山として招かれた高僧や地元出身の禅僧たちの肖像画を題材に、臨済宗が飯田・下伊那の地に定着していった時代についてお話しします。



▲「雪嶺瑞秀像」下伊那郡松川町・瑞応寺蔵（歴史研究所蔵『みるよまなぶ 飯田・下伊那の歴史』より）

●3月14日（土）午後2時～午後4時
「飯田・下伊那の本棟造」
・講師 金澤雄記（研究員）
・場所 伊賀良公民館第1会議場



▲江戸時代後期の本棟造（市瀬家）

本棟造は中南信地方特有の美しい民家形式であり、飯田市域には概数として明治期以前のものが150棟程度残存しています。歴史研究所では本棟造の調査を行っており、その調査報告も兼ねて、かつては本棟造が80棟以上あったとされる伊賀良地区で地域史講座を開催します。約300年の歴史の中で変容した本棟造の本来の姿を探り、その変遷を追いたいと思います。

～定例研究会～
研究活動促進のため、公開の定例研究会を飯田市歴史研究所研修室において開催します。

2月14日（土）午後2時～午後4時
「『軍教問題対談会記事』を読む」
講師：清水進夫（調査研究補助員）

3月28日（土）午後2時～午後4時
「耕作地主の経営分析―松尾村森本家の事例―」
講師：田中雅孝（調査研究員・松川高校教諭）

上飯田村の古絵図を公開
昨年当研究所が入手した「信濃国伊那郡上飯田村地引絵図」を広くご紹介します。

「村絵図からみる飯田と羽場のいまむかし」
日時：2月26日（木）午後7時～午後8時30分
場所：飯田市羽場公民館1階大会議室
講師：竹ノ内雅人（研究員）

みんなの森本日記

加藤陽子さん（東京大学大学院教授）



「森本州平日記」より

吉田伸之先生とご縁から、私が教える東大文学部の日本近代政治史ゼミで森本州平日記を読み始めて、この4年で3年になる。森本州平がいかなる人物であるかを、「歴研ニュース」読者に説明するのは不要だろう。歴史研究所が昨年4月に刊行した現状記録調査報告書の第1巻となった、『飯田市松尾新井森本家（大森本）文書』を代々伝えてきた森本家において、明治期の森本勝太郎と並び、大正・昭和期において長野県あるいは下伊那郡の政治史を語るには欠かせない人物である。

現当主である森本信正氏から一時的に貸与された日記原本を、歴史研究所の齊藤俊江氏の手を患わせてコピーしていただき、それを解説してゆく。2週間分の日記を、五、六人から構成される班のメンバーで手分けして読み、日記の内容を、当該期の国政や経済状況と摺り合わせ、日記に書かれた事項の歴史的意義を考察して発表するのである。

無理は百も承知の上だ。崩し字に多少心得のある大学院生が班長となりはするもの、ようやく20歳をむかえる学生にとっては見知らぬ土地の、地主

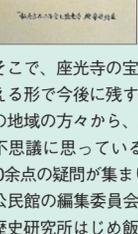
経営、産業組合経営の製糸工場での諸問題、村の中で次々と起る諸問題に奔走する森本州平の内面に向き合わねばならない。国学や骨董にも造詣の深かった州平の教養についてゆくと大変だったろう。

ただ、私には一つの目論見があった。今の学生は、生まれた時から自分専用の勉強部屋で育ち、自分専用の新品の教科書や参考書で学んで育ってくる。このような環境で育った学生を、あえて負荷のかかる環境に置いてみようと考えた。一つの日記を読む作業は、学生に、一つの史料を共有し、1冊の参考文献を相互に融通しあひながら読み、前後の報告者の発表内容と重複しないよう、テーマをお互いに調整し合う必要性を無言で教える。その成果は『東京大学日本史学研究室紀要』第11、第12号をご覧いただきたい。

市民の声

『私たちのふるさと座光寺』 発刊にあたって

大内智治さん（飯田市座光寺公民館長）



『私たちのふるさと座光寺』

十年一昔と言いますが、現在の進歩にはすさまじいものがあります。世の中の移り変わりにより、座光寺地域も発展してきましたが、一方で貴重なものが失われたり忘れ去られたりしたことも事実です。

そこで、座光寺の宝である貴重な財産を、皆さんの疑問に答える形で今後に残すべく、児童・生徒の皆さんをはじめ多くの地域の方々から、座光寺に関する「なぜ」「どうして」「不思議に思っていること」などを募集しましたところ、300余件の疑問が集まりました。

公民館の編集委員会で検討し150余点に絞って編集、飯田市歴史研究所はじめ飯田市教育委員会のご協力をいただき、このたび『私たちのふるさと座光寺』として出版する運びとなりました。ふるさと座光寺を思い出すとともに地域の発展に寄与する1冊になればと思います。

『私たちのふるさと座光寺』（頒布未定・2009年2月未刊行予定）
問い合わせ先：飯田市座光寺自治振興センター 電話0265-22-1401

歴研ゼミ 2月・3月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分（各ゼミ共通）

近世史ゼミ		
近世下伊那の民衆生活史	■開催日	第1・第3火曜日 2月3日・17日 / 3月3日・17日
■担当	竹ノ内雅人（研究員）	
近現代史ゼミ		
地域社会史入門―飯田町の記憶を探る―	■開催日	第2・第4木曜日 2月12日・26日 / 3月12日・26日
■担当	田中雅孝（調査研究員）	
現代史ゼミ		
地域社会とグローバル化	■開催日	隔週水曜日 2月4日・18日 / 3月18日
■担当	鬼塚 博（研究員）	
建築史ゼミ		
建築と町並みの見方	■開催日	第2火曜日 2月10日 / 3月10日
■担当	金澤雄記（研究員）	

研究助成

歴史研究助成報告会を開催します

歴史研究所では、個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行っています。今年度この助成を申請した皆さんが研究報告を行います。

日時：3月1日（日）午後2時30分～午後5時 場所：飯田市上郷公民館103号会議室

- ▼研究課題（順不同）
- 「日記記述から史実の検証をどのようにしたらよいか」
 - 飯田市長野原地区の歴史について（長野原の小字とその歴史）
 - 高度経済成長期日本の過剰対策―長野県下伊那郡南信濃村を事例に―
 - 伊賀良地区の地名・小字調査
 - 1950年代の地域社会と青年たちの関係を明らかにする
 - 飯田市・裏界線の変遷と現在の利用方法
 - 戦後の飯田市を本拠とした鈴木俊平の経歴と建築活動に関する基礎的研究



2006年度研究助成報告会の様子

※事前の申込みは必要ありません。お気軽にご参加ください。 ※当日発表を行わない研究もあります。 詳細はお問い合わせください。

問い合わせ 飯田市歴史研究所 ☎0265-53-4670 FAX0265-21-1173

歴研目録

- 12月
- 2日 聞き取り調査（橋爪佳人氏・下久堅南原）／近世史ゼミ「浜松からの書簡を読む」
 - 3日 古文書修復研修会に参加（長野市公文書館）
 - 3・4日 歴史的建造物調査講座
 - 4・9・10日 松川高校地域史講座 金澤雄記
 - 6日 地域史講座「戦時体制下の体操大会」田嶋一
 - 9日 建築史ゼミ「景観」
 - 10日 現代史ゼミ「明治以降の下伊那の変化（政治）」
 - 11日 近現代史ゼミ「聞き取り調査について」
 - 12・13日 長野県立歴史館所蔵飯田・下伊那地域関係の絵図撮影
 - 13・14日 飯田アカデミア第46講座「信州教育の栄光と挫折と再生・下伊那教育の栄光と挫折と再生」宮坂廣作さん（行政現用文書の管理）
- 1月
- 7日 現代史ゼミ「英語教育の政治性」
 - 8日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を掘り起こす』」
 - 13日 戦争資料収集（市内）
 - 14日 南原区民センター史料調査
 - 15日 歴史的建造物調査
 - 16日 建築史ゼミ「飯田遊園の娯楽生活」齊藤俊江
 - 17日 近現代史ゼミ「『後見養子買ひ』証文」
 - 21日 現代史ゼミ「明治以降の下伊那の変化（経済）」
 - 22日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を掘り起こす』」
 - 24日 地域史講座「時計生産を支えた女子社員―伊賀良地区と平和時計製作所」本島和人
- 継続調査 松澤卓治氏所蔵文書、菊池謙一・幸子史料、後藤信正氏所蔵文書、今村八東氏所蔵文書、森本信正氏所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵文書、中伍氏所蔵文書、上松家所蔵文書、中原謙司史料、楯孫氏史料、岡田昭夫氏所蔵文書、平沢洋二氏所蔵文書、南原区民センター所蔵文書、部奈一朗氏所蔵文書



飯田アカデミア第46講座



地域史講座「時計生産を支えた女子社員」

2月・3月の催事スケジュール

2月	2009	3月
日	1	日 研究助成報告会
月	2	月
火	3	火 近世史ゼミ
水	4	水 現代史ゼミ
木	5	木
金	6	金
土	7	土 アカデミア第47講座
日	8	日 アカデミア第48講座
月	9	月
火	10	火 建築史ゼミ
水	11	水 建築史ゼミ
木	12	木 近現代史ゼミ
金	13	金
土	14	土 定例研究会
日	15	日
月	16	月
火	17	火 近世史ゼミ
水	18	水 現代史ゼミ
木	19	木
金	20	金
土	21	土 地域史講座
日	22	日
月	23	月
火	24	火
水	25	水
木	26	木 近現代史ゼミ
金	27	金
土	28	土 定例研究会
日	29	日
月	30	月
火	31	火

開所日 休所日
開所時間 午前9時～午後5時
休所日 日曜日・月曜日、祝日、12月29日～1月3日